

〈令和4年度 高齢者孤立防止事業〉

各戸訪問における高齢者の暮らしについて(報告)

1. 目的

高齢化の進展、地域コミュニティの希薄化など、高齢者を取り巻く社会状況が大きく変化する中、高齢者が市や社会とつながりを持つことで、孤立感を減らし、安心感を持っていつまでも住み慣れた地域で生活できるよう支援する。

2. 訪問実施概要

- (1) 訪問者: 民生委員児童委員・市職員
- (2) 訪問期間: 令和4年10月初旬から令和4年12月末
- (3) 訪問対象者: 市内に住所のある80歳(昭和17年4月1日~昭和18年4月1日生※)の人(施設入所者、介護認定がある人を除く)  
※来年度より4月2日~4月1日生を対象とする。

〈訪問対象者数:948人〉※80歳全体の84%

(7月末現在)

区分	訪問対象者		訪問対象外	80歳 合計
	介護認定なし		介護認定あり	
人数	652人	296人	183人	1,131人
訪問者	民生委員児童委員 163人	市職員 44人(22組)	ケアマネジャー 地域包括支援センター	

(4) 訪問内容

- ・高齢者に知らせたい内容を掲載した「高齢期の健康ガイド」、「防犯情報・反射材装着のチラシ」「相談・緊急連絡先一覧」等を手渡し、相談先などを紹介する中で、市や社会とつながっているという安心感を届ける。
- ・訪問者は、高齢者と会って話をする中で、日ごろの暮らしぶりなどを聞き取り、高齢者が孤立感を抱いて生活していないかなどを直接感じとる。

3. 訪問による聞き取り結果

(1) 属性

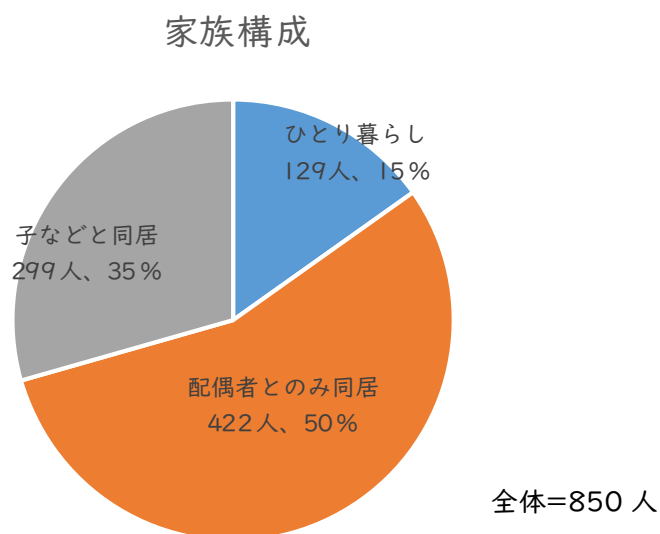
訪問対象者 948人	聞き取りできた人	850人(90%)
	聞き取りできなかった人	98人(10%)

〈聞き取りできなかった主な理由〉

訪問不要、入院中、非居住、死亡 など

## (2) 家族構成について

- ・ひとり暮らしの人は、129人(15%)
- ・配偶者のみと同居している人は422人(50%)で、ひとり暮らしと合わせると551人(65%)が高齢者だけで暮らしている。



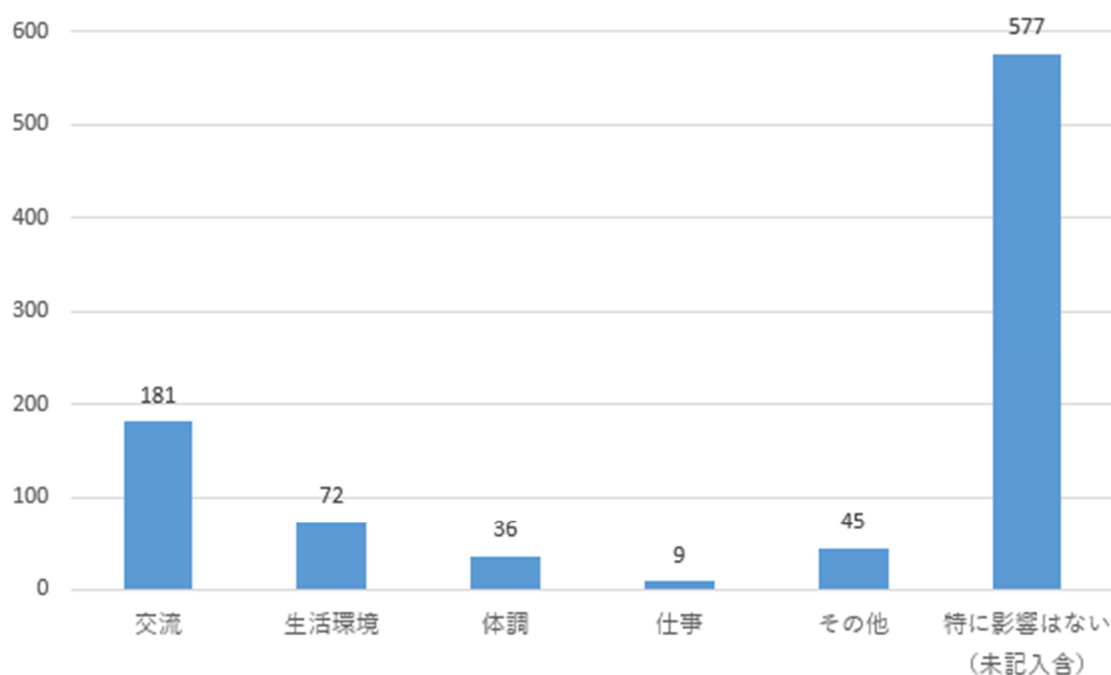
## (3) コロナ禍での影響について

- ・コロナ禍で影響を受けているものとして、「交流」と回答した人は181人。

新型コロナウイルスのまん延によって、外に出る機会や人と会う機会が減ったと回答する人が多く、少なからず交流に影響を受けている。

- ・反面、「特に影響はない(未記入含む)」と回答した人が577人あり、コロナ禍の生活がある程度順応してきていると考えられる。

コロナ禍での影響 ※複数回答



(4) 生活状況などについて

① 気軽に話せる人、頼れる人はいるか(身内でも近所でも)

・気軽に話せる人が「いる」とした人は817人(96%)

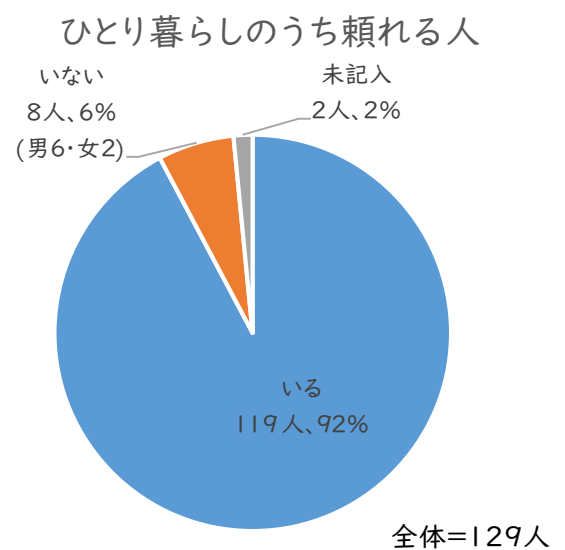
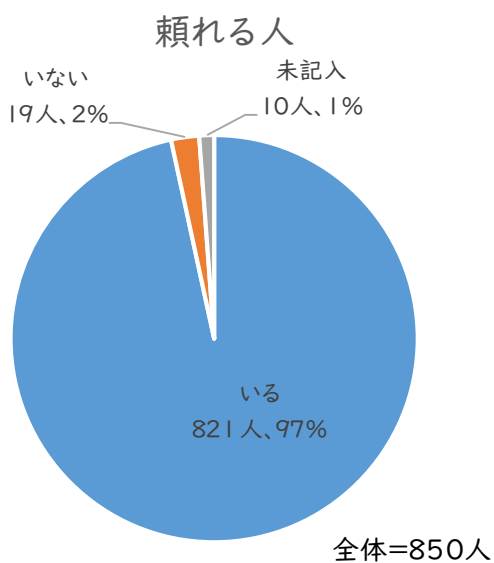
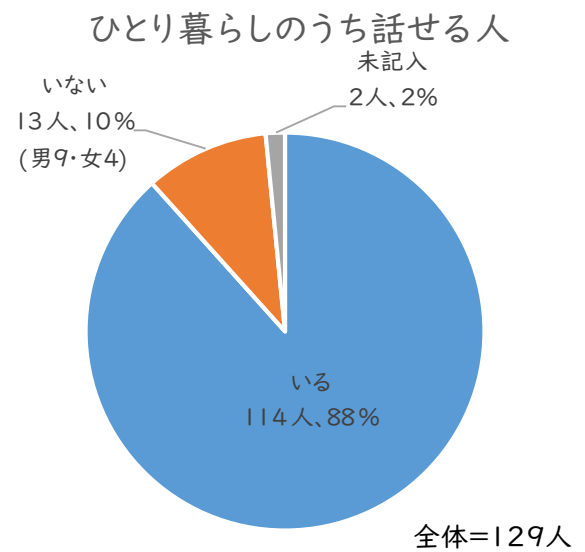
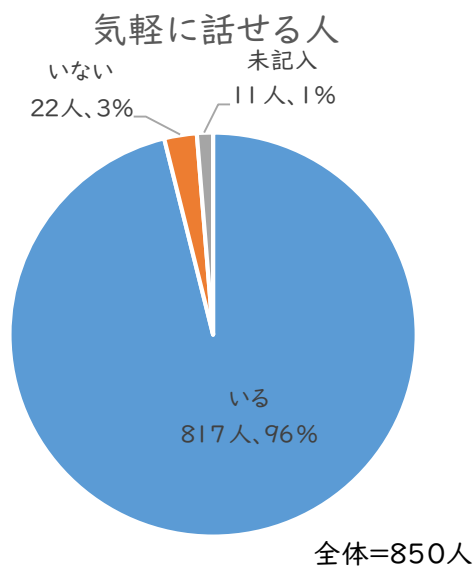
・頼れる人が「いる」とした人は、821人(97%)

で、どちらも9割以上の方が気軽に話せる人または頼れる人がいる。

・市内や近隣市町村に子どもがいる人が多く、地域での通いの場に参加しているという人も多かった。

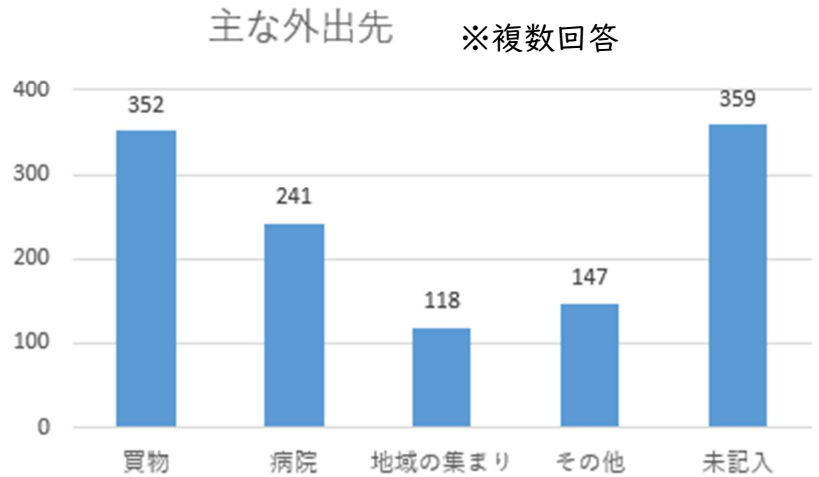
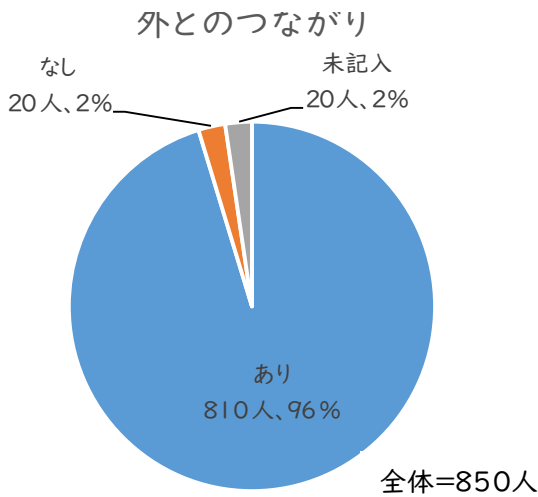
・ひとり暮らしで、気軽に話せる人や頼れる人が「いない」とした人は6人。

・配偶者や子など同居していても、気軽に話せる人や頼れる人が「いない」とした人は4人で、家族と同居していても、孤立を感じている人がいる。



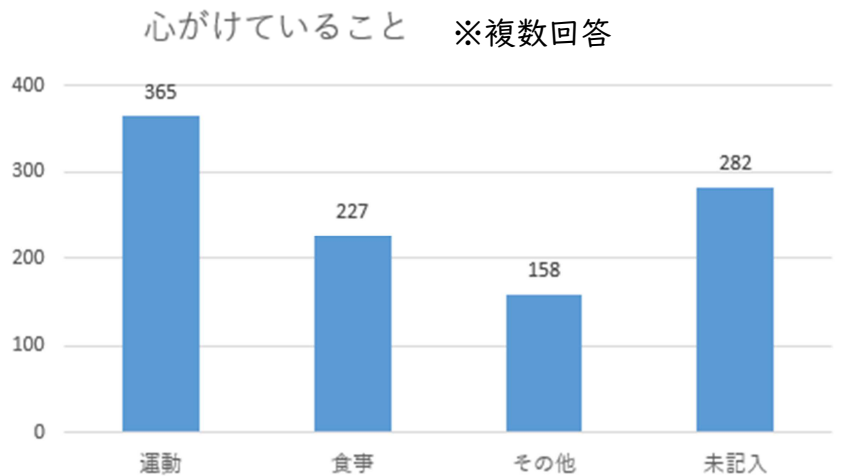
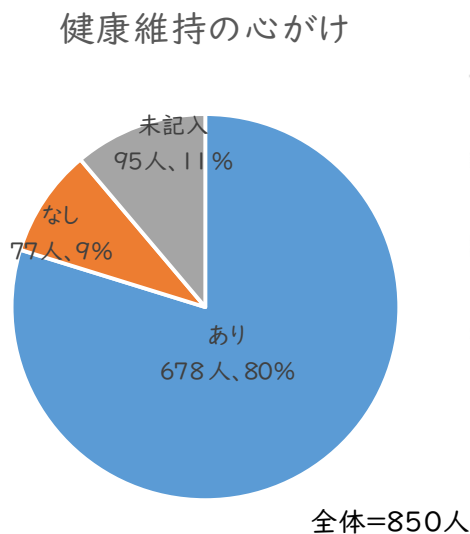
②外とのつながりがあるか(外出しているかなど)

- ・外とのつながりが「ある」とした人は810人(96%)
- ・主な外出としては、買物が最も多く、続いて病院が多い。
- ・他にも、仕事、デイサービス、ボランティア、畑、友人との会食など、様々なかたちで外とつながっている。
- ・外とのつながりがないとした20人のうち15人は頼れる人がいることから、外出はしていなくても同居者や近くに身内等がいることがうかがわれる。
- ・外とのつながりもなく、頼れる人もいないとした人は3人。



③健康維持に心がけていることはあるか

- ・健康維持のために心がけていることがあると回答した人は678人(80%)
- ・主な心がけとしては、運動が365人と最も多く、続いて食事が多い。
- ・「その他」の回答では、散歩(ウォーキング、犬の散歩)を定期的に行っている人が多く、それ以外にも畑仕事や庭仕事、脳トレ、ゴルフなどを積極的にされている様子がうかがわれた。



#### ④どのような情報がほしいか(多い順)

- ・交通手段について(デマンドバスの利用方法、免許返納後の移動手段など)
- ・健康、介護に関する情報(相談先)
- ・新型コロナウイルス情報
- ・困ったときの相談先

#### 4. 訪問をした民生委員児童委員・市職員の主な意見、感じたこと

##### (1) 高齢者の暮らしについて

- ・元気で穏やかに、はつらつと生活をされている印象。日頃からスポーツや散歩等、コロナ禍でも体を動かせるよう健康維持に心掛けておられ、若々しい方が多い。
- ・「話せる」「頼れる」人がいるかとの問いに「ご近所」と言われる方が多く、日頃からお付き合いをされ、年齢差があっても趣味などを通して交流を深められている様子がうかがわれた。
- ・老人会や地域活動、ボランティアなどの活動をするなど元気な方が多く、活力のある世代と感じた。
- ・夫婦ともに体が不自由で近くに頼れる親族もないという世帯や自宅で介護(老々介護)をされている世帯の話から、体力的にも精神的にも辛い現状を目の当たりにした。
- ・独居の方は補助の必要があり、同居者ありの方は、同居者がいない状況になった場合の不安があり、近い将来は何らかの看護が必要となる。不安を持っている人が多いと感じた。
- ・免許返納により交通手段がなくなることで、外出する機会が減り、社会から孤立することへの不安を感じている方が多かった。
- ・自動車運転免許証返納後の不便さを懸念する声が多く、公共交通の見直し、充実を要望される声がかかり多くあった。コミュニティバスの利用方法、電話でお出かけバスの認知度が低く、周知の必要性を感じた。
- ・いつまでも元気であるために高齢者の集まる場、遊ぶ場の提供を希望する声も多く、より元気に過ごしていただくために、場の提供や地域との連携も、行政の今後の課題でもあると感じた。
- ・どの方も日頃から詐欺にはかなり注意しており、固定電話を留守電にするなどの対策もされている様子がうかがわれた。

##### (2) 事業全般について

###### <民生委員児童委員>

- ・訪問を喜んで待っている方が多く、今後も継続すべきと考える。
- ・見守り対象になるかは訪問して初めてわかることであり、今後も高齢者孤立防止事業は継続していくべきだと思う。
- ・近くにお住まいで事情がわかっているつもりでも、訪問して新たにわかることがあり、改めて話すことの大切さがわかった。
- ・この訪問でもう少し高齢者の生活を細かく伺い、どのような生活のお手伝いができればよいのか聞き、今後の見守りに生かしたいと思った。
- ・挨拶や日常的な会話をする程度の方を、民生委員として訪問した。いつもなら話すことのない家庭内の状況をお話しになり、改めて民生委員の責任の重大性を考えさせられた。
- ・特に病気、買物等の外出に対する不便さを話す方が多い。今後民生、市等の協力を望む人が多くなっていくと思う。

- ・民生委員とはいえ、初対面の方は思慮深く、快く対応をしてくれなかった方が多かった。アンケートのかたちで対象者に聞き取り内容を郵送し、回収時に訪問するとよかったと思う。
- ・80歳に限らず、若い世代のひきこもりや8050問題を抱える世帯等への見守り事業も必要ではないのか。
- ・運転免許返納後の交通手段にお困りの方が多い。運転免許返納後の外出手段を行政で考えていただきたい。

#### <職員>

- ・事業に対して好意的な方が多く、「顔を見に来ました」と言うと、皆さん嬉しそうな表情をされたのが印象的だった。市の職員が自宅を訪問してくれたということ自体を喜ばれる方が多かった。
- ・訪問したことを「ありがとう」と言っていただけの方が多く、少しでも役に立てたことに意義がある。市の取り組みとしてよいことであり、継続してほしいと思う。
- ・担当した方々は元気で訪問の必要ない方ばかりだったが、それはたまたまの結果であるので、高齢者の訪問は引き続き必要だと思う。
- ・市民の生活を直に感じることは重要。訪問することで、職員としての実感を持てた。
- ・子どもと同居している家では、そもそも聞くまでもなく「助けを求められる人がいる」状態であることは明らかで（そうではなかったとしても突然訪問してきた市職員に言うとは思えない）、訪問の意味はなかったと感じた。
- ・訪問対象年齢を引き上げてはどうか。また80歳になった方だけでいいのか、その後の見守りをどうするか等、課題はある。
- ・仕事等で忙しい方、給与所得があるような方への訪問は不要と感じた。「給与所得あり」「若い人との同居」を除外するなど、もう少し対象者を絞ってもいいのではないかと思う。
- ・令和3年度末データで、市の75歳以上の健診未受診かつ医療機関未受診者は2.8%いる。このような方の健康状態や社会との繋がり状況が気になり、孤立防止の訪問をしてはどうか。